

刀利礫岩層

刀利ダム右岸側に露出する礫岩層「赤壁」

小矢部川上流の刀利ダム右岸側には、通称「刀利の赤壁」と呼ばれる礫岩層が見られます。この地層は、今から約2900万年前に、アジア大陸縁辺部の平野を流れる河川によって、上流から「正珪岩」や流紋岩、花崗岩等の岩石の円礫が堆積したものと考えられます。

この中で「正珪岩」は、先カンブリア代（5億7000万年前よりも古い時代）の大陸で堆積した砂岩が起源と考えられているかたい岩石で、福光玉杯の原石となって活用されています。福光玉杯を日光にすかしてみると、玉杯が細かい砂粒での集まりであることがわかり、もとは砂岩だったとわかります。何億年という気の遠くなるような年月を経て、砂岩が強く固結してこのような硬い岩石になったのです。

